幼稚園における模倣表現の題材展開の諸問題

碓　井　エ　イ

はじめに

島根県においては昭和40年に島根県幼稚園教育課程基準（試案）を公表している。これは幼稚園教育要領の改訂に伴ない，その趣旨に添いながら県としての地域の特殊性を活かし，全県下の幼稚園において実施でき得る共通的な内容が盛られ，過去三年間の研究成果をとり入れたものである。

幼稚園教育要領の改訂に際し，音楽リズムのリズム遊びの領域においては，特に教育目標につながる具体的活動の提示が，現場実践家達の要請であったと推察されるが，各領域のねらいを組織して選択し配列する「望ましい幼児の経験や活動」は，地域や各幼稚園の実態により異なるべきものとして，この基準で示す，「望ましい幼児の経験や活動」は骨組みだけを示した例示に過ぎないものであった。

昭和29年，小学校要領体育篇が改訂された際には，身体的発達・民主的態度・レクリエーションの三つの角度から整理された目標を，具体的な活動につなぐための配慮がなされ，その点が指導者達の研究成果を促進する所以となっている。幼稚園に関しても之に準ずる措置は相当期待されたのである。

学校体育の一領域であるダンスは，明治後期より終戦に至る数十年間の長い年月に亘って，感情発表的な既成作品を指導するという教授中心の形態がとられ，日本国中のいかなる小規模学校においても，此の原則的な考え方と之に応ずる方法は余すところなく浸透していたと見ることができる。然るに昭和20年，敗戦を契機として，目標・内容・方法など飛躍的な一大転換を遂げたのである。即ち生活環境や生活感情から取材し，創作的表現に導くために，児童・生徒の自主的創造性を重視するという方向をとり，教授から指導へと児童中心の立場から学習指導の建設が始められたのである。次いで昭和24年，小学校では学習指導体育篇が示され，リズム運動は更にその方向を具体的に示し，その名称を児童の側から，「リズム遊び」・「リズム運動」と改め，リズムによって楽しい活動を誘発するものであるとされた。

爾来20年近くの間，教師は地域の特殊性を重視しながら，彼等自身の表現力・創作力の伸展を期するとともに，新しい原理と学習指導法の研究に励み今日に至っている。しかしリズム遊び・リズム運動・ダンス（中学校）・舞踊創作（高校）の指導は困難であるとの声は現在に至るも決して少なくなく，体育科の活動内容としてその特性を発揮するため幾多の問題解決を迫られているというのが実情である。

その遠因または近因の一つとして伝統的教師中心の指導観の根強さが関連しているとみられる点もある。要領改訂の当初はダンスの具体的方向は教師の自主的判断に任せられたのであるが，「経験の表現」という新しい学習指導形態を有効に展開するための教師の資質・能力として，先づ教師自身が或程度美しく踊る技能を身につけ，出来得れば幾種類かの伴奏楽器奏法を習得し，豊かな創作力でもって情景を設定するなどで指導するとか，また制限された一定区劃のなかで特定数の児童・生徒による群舞を，変化と統一の美的原理に則して，作品を演出構成するところの理論的，実践的能力を修得することに汲汲としていたのが今までの実態ではなかったかとみられる。これは実に長い間の教師中心の指導観が未だに根強く残存している証拠とみることができる。個性的表現を重んじる模倣・表現活動の指導は，教師が中心になって子供を引っ張っていくのではなく，あくまでも幼児・児童の内からの要求の多寡・方向を考慮す

るなど子供の側に眼を向けなければならない。

一定の成熟を予想して，その上に効果を期待する教育においては，具体的な家庭・学校・社会環境を中心として，身体的・運動的・知的発達の各分野がそれぞれ発達したり，または調和的に発達するという成長発達の一般的傾向を知ると同時に，個々の子供の具体的な発達であるところの個人差を正確に観察し，またよく理解して学習指導の展開を充実させ，人間の真の成長発達を期さなくてはならない。今回は発達に関する問題として特に運動的発達に関して述べ，さらに本研究によって具体的題材例による幼児の模倣活動を観察して，その発達過程の一様相とし，次いで段階的発達をみようとするのである。（例A）

先に述べたようにダンスの学習指導法に関しては，当初はその具体的方向は教師の創造性を拠り所とした自主的判断に任せられたのであるが，これと同様の傾向の課題が幼稚園の教師に与えられたとみなければならないであろう。もっとも小・中・高校においては，既成作品としての作品構成の段階が示されたという伝統的遺産があったが，幼稚園においては此の点に関しては皆無に近い状態であったと言ってよく，ここにも音楽リズム学習指導上の困難がある。

そこで全く逆な手順であるが，小学校の体育教科より幼稚園の教育内容を下におろし，学習内容・学習課程を考察し，更に学習成立の諸条件を考えてみることにしたい。

今回は現場の教師と筆者の幾つかの学習指導計画のねらいに若干の相違は認められるが，一応現段階の発達にある幼児に対して適切と考えられた幾つかの題材の中より選択して与え，実際的活動を観察し，幾つかの題材展開上の問題点をあげて考察を加え，今後の模倣学習指導の改善・工夫に役立てたいと考えている。筆者はこの題材展開の具体例は現場実践家のもっとも早急な要請を知り，当初においては幾つかの指導のつまづきを痛感しながら二十回余りの学習指導を試み，幼児との直接的接触により，幼児の活動全体を個人的または集団的に眺めて問題解決の緒口を見出そうと努めたのである。

I　小学校教科を基にした幼稚園の教育内容の考察

①　学習内容

学校体育の領域中では健康・安全に関する内容を重視するものと，比較的軽視するものとがある。ダンスは後者に属する。しかし幼稚園においては独自の領域とねらいがあり，リズム遊びは全人活動として行なわれる時期であるということを考え，指導の重点も種々考慮しなければならない。幼児期の健康・安全教育でもっとも重要視されなければならないことは行動の習慣化であるが，特に安全に関しては社会の要望であるところの幼児を交通事故から守る配慮の必要からリズム遊びの学習が期待されている。即ち変則的な日常生活行動から生じ易い緩慢性を克服し，不時の危険から我が身の安全を守る機敏性を培うためである。ルールの内容も広義に解釈し，遊びを協力して楽しく運ぶ観点から「しつけ」と関連させ，良い習慣を形成するために環境の整備徹底を重要視しなければならない。

②　学習課程

目標を明確にして目標に向かって計画的に指導することは極めて重要である。目標に達するために計画された対象・事物を理解しそれによる種々の活動が有効に正しく行なわれるためには一定の順序がなくてはならない。学校におけるダンスは教授から学習に移行し，活動の主体が教師から生徒児童に移った現在は勿論おのずから異なった形成が必要なのは言うまでもない。殊に自主的表現活動を内容とするリズム遊びにおいては，正しい過程をふまえた合理的な学習指導の研究が積極的に始められ，その継続が必要とされなければならない。

一般に運動技能の学習は反復運動によって，それが望ましい型に定着するという過程をとる。その順序は教師の側からは，課題の提示，動機づけ，手順の指示，矯正，評価となり，児童は目標の理解，運動意欲，練習，修正，固定

の順序となる。

幼稚園のリズム遊びにおいては，㋑題材の提示　動機づけから直ちに題材に関する問答を行ない，幼児の理解度・興味の方向を詳しく探る。㋺活動及び反復練習。㋩問答及び思考。㋥展開活動による動きの変化。㋭示範及びその模倣。㋬総合練習または幼児の観察・思考に基づく新しい展開などと順序づけられる。即ち対象を感覚器官の働きで知覚し直観的に動き方・形の種々・対象の持つ感じを直接的に把握し，その動きの単純なパターンの反復をする。引き続きその動きの情景提示により速度・リズム・強弱の変化発展を徹底させ，この動きのもつリズム感の修練を計る。さらに自発的な模倣活動へ移行できるように展開が工夫される。このように対象の特徴の把え方・特徴の誇張の方法を実際に理解し，模倣表現の観方・感じ方を適確に助言するように身近な題材選択を慎重に行なって，学習指導を積重ねる順序をとるのである。

③　題材選択の基準及び学習指導展開例（小学校一年）

幼児に対してどのような経験を持たせることが望ましいかの正しい理解の上にたって題材を選択することが，もっとも重要である。

小学校一年生のリズム運動の学習指導のため例示された題材は「動物」「乗物」「遊び」から選択され，さらに動物ごっこ・動物の一日・買物ごっこ・汽車ごっこ・遊びましょうの具体例が抽出されている。これ等の題材は地域の特性に応じて施設用具・リズム運動の経験・学校行事などを考慮して内容を組み合わせることになる。

学習指導展開の一例を動物ごっこにとると，㋑歩き方をみつける。㋺一人で決められた動物になる。㋩二人で親子になる。㋥二人で一匹の動物になる。㋭二つの組で合わせて模倣する。㋬遊びを続けてする。などと情景設定の手順が示されているが，各項目毎にいかに個性的な自由表現を重要視しているか理解できるであろう。更に題材の内容を指導する諸要点が示されて，二人又は三人で組になり，いろいろな動物の親子や友達になったり，二つの組が一緒になり，動物とそれに関係した風物となって交代して遊ぶなど，または対人関係が円滑になり二～三人の友達と協力して写実的な表現を喜ぶ態度に応じる等の要点が示されている。実際の学習指導の展開順序は導入後教師が題材に関する情景描写を物語的に，又はリズム言葉や伴奏の活用により，㋑歩き方を見つける。個人が各自の個性に応じて良く観察し理解の伴なう対象を自由に選出し，歩き方を見つけて基本的リズムを反復する。㋺一人で動物になる。教師が本時の題材中の主題を児童との話し合いによって決め，その題材に関して自由表現をする。軽快なリズムの変化によりその対象の歩き方・走り方・跳び方・はね方等をする。㋩二人で一匹の動物となり，リズムの協調，または協力場面をつくる。㋥二つの組で動物とそれに関係した風物となり交代して続ける。一組は動くのに対して一組は動かずに，簡単なリズムの対応が現われ，また交代実施となる素朴な律動遊びとなる。㋬遊びを続ける。模倣は表現・創作へと移行し発展するに従い，初め，なか，終り，のように時間的経過により一つの表現性を完うする性格をもっている。簡単な模倣遊びにおいても最終的には初めから連絡する活動として指導し，漸次遊びの全体感・終止感を体得させる運び方が重要になる。

指導上の留意事項として児童の学習意欲・成熟的レディネスが考慮され，合理的に学習するための段階が示されている。

このように小学校においては題材に関する例示が明確になされているが，幼稚園においてリズム遊びの目標の到達基準を小学校一年のそれに置いて実施をみる場合，問題点は決して少ないとは言えないであろう。幼児の発達段階に応じたリズミカルな動きの活動範囲・その動きの応用展開活動の推測・興味の持続時間・対象に対する理解度・協力のしかた等の幼児に関する理解が学習成立の条件となる事態が題材選択を困難にしていると見られる。

Ⅱ　題材に関する資料の考察

松江市内の各幼稚園音楽リズム研究班の日頃の努力により，幼児の興味・関心に基づく題材例は，漸くその累積をみて現在に至ったが，題材研究に関する資料の収集に関しては，必要以上の労力を費やしている現状である。

例1より例8に示された題材例選択の観点について説明する。

㋑　各幼稚園における該当の級担任教師が日常の園生活の中で，幼児の生活と言動を詳細に観察し学習展開の可能性を見透して決定した題材で，幼児の模倣の内容と活動量は一応十分であると考えられた諸例である。

㋺　筆者が面識のない幼児に対して指導する場合，リズム及びその変化の把握が容易で，誰にでも興味の持てる即物的題材である。

㋩　筆者が接触の少ない幼児に対して，広い場所における幼児の自由行動半径を狭めるため，遊びの場の設定を行ない，教師の指導が全般に徹底し，幼児の掌握を配慮した題材である。これはまた新任教師の模倣に関する学習指導経験の少ない時期に適した幼児の管理上適切な題材でもある。

以上の題材例を分類すると，㋑　幼稚園内又は進学小学校で飼育している動物の観察を主にした題材が最も多く，兎・亀・蟹・小鳥類・雞・あひる等があげられる。　㋺　生活環境のなかで誰にでも容易に観察ができる題材で，めだか，鮒，沙魚（松江市附近では「ごず」，浜田市附近では「ごりっちょ」）どじょう，蛙，ばったその他の昆虫類，落葉，乗物類。　㋩　園外幼児教育により教師と同時に有効な観察のできる題材で，熊，あしか，猿，きりん，（一畑パーク遠足に際して），馬，又は乗物の種々等，　㋥　既習の歌，曲に合わせリズミカルな動きの構成反復のできる題材で，フォークダンス系の歌を伴なう遊びや，その他の簡単なリズム遊びによる題材。　㋭　園内の固定遊具・室内遊具施設を活用した題材。　㋬　教師の創作した物語，又は既存の物語遊びを展開する等の題材が考えられる。しかし各項目毎に今少し多くの具体的な題材例を発見しなければ，学習経験の差，年令による混合組指導，地域差による環境条件を克服などの難問題の解決が残されているので，学習指導はまだまだ困難の伴なうことを覚悟しなければならない。

今回の題材例については各幼稚園の音楽リズム研究班に籍をおく教師達と学習指導の成果を互いに確認し，また学習指導の改善に努むべき諸点を批判・評価し，漸次指導力の向上に努めた題材例であるが，これらの指導例に添って他の園で実施する際には，まだ幾つかの問題が残ると推察される。それは題材としての実物が観察できるか，又は実際的資料が収集されるか，さらに或程度収集された資料が具体的に学習指導に容易に転移できるか否かにある。

次にこれに関する事例をあげてみる。昭和40年10月上旬，幼稚園・小・中・高校を対象に開催された島根県学校ダンス研究会において，幼稚園部の学習指導公開に当ってとりあげられた題材が，身近な動物としての亀である。当日の協議会においては，題材中の遊びの発展段階としてとりあげた家鴨に比較した場合，模倣内容の稀薄と活動量の比較的減少が問題となり，動きの少ない題材と指定された。然るに今夏宍道幼稚園園庭に飼育されている三・四十匹の亀の動態を観察し，また同園H教頭教諭の説明によりその活動量の大なるのに驚かされた。それは飼育係が外囲いの前に立ち壁を叩く場合は，先を争い小亀の背を乗り越え，他の甲らを手足で押さえ首を伸ばしまたは振り廻し，餌を求める様子は生きる力強さを感じさせると同時に獰猛動物を感じさせる。また小岩を登り失敗して引っくり返り手足をばたつかせて大騒ぎをする。冬季は砂の中に穴を掘り静かに冬眠をするなどの実態が観察されている。その他卵から孵った小亀が渚を目指し懸命に歩く姿なども豊富な情景設定の対象となることを知ったのである。以上の観察資料に基く学習指導の展開は比較的容易とみてよかろう。

次は象に関する資料であるが，特に幼児が興

味・関心をもち模倣内容として活用できた部分を指摘してみる。

陸の動物中最大。頷が短いので，食物をとるには鼻と上唇が伸びた長い鼻を使う。その先端には鼻孔と指状突起があり，小さいものでも巧みにつまむ，足は太く指は分かれない。門歯は上顎に一対だけで，長大なきば（ぞうげ）となる。アフリカ象は肩の高さ3.5米，体重7トンに達し耳が大きい。きばは雄雌とも長大で，これで根を堀って食う。インド象は肩の高さ3.3米体重5トン以下耳が小さく鼻の指状突起は一個，雌のきばは小さい。森林に住み強い日光を嫌う。馴らしてチーク材の運般・車引きなどに使う。西アリフカの森林に住む。マルミミ象は肩の高さ2米で耳が丸い。

題材に関する資料は内容が豊富で良い変化が必要であるが，同時に現実的・直接的で卒直でなければならない。幼児は現実世界に生きている故に，現実を拡張・充実することが幼児の健全な想像力を高め，経験の再編成としての模倣学習の効果が期待できる。

題材収集，また交流は引き続き今後の研究課題であると考えている。

Ⅲ　題材展開上の留意点に関する考察

(1)　導入に関して

戦前の学校ダンスの基本練習，基礎練習と称された基本ステップ類による個人的技能修練の形態が現在においても問題になっているとみられる点がある。幼稚園においても準備段階の技能練習を必要とするが，展開部の表現活動の内容の手がかりとなる直接的な技能を，数多くの技能より抽出選択して練習を実施するあり方は，到底至難と言わなくてはならない。導入で多く採用される形態は㋑基礎的リズムとして歩及び歩の応用技能，走及び走の応用技能，移動を主とする技能，即興的練習の補充などを与える。㋺フォークダンス系の動きを伴なう型を与え，方法順序を会得した題材を，レコードまたは教師の伴奏によって動く。㋩学習展開のための導入として学習の内容・方法を理解させ学習に対する或程度の見透しをもたせるために興味づけが行なわれる。以上が実施の現状である。

②　基礎的リズムに関して

昭和11年学校体育教授細目では全般的に内容が増大され，ダンスの内容は基本練習・唱歌遊戯・行進遊戯とし，基本練習を分節して指導する形態がとられたのである。之が現在に至るも伝統的な指導形態として残存している。リズム遊び・リズム運動においては「経験の表現と基礎リズム」として，表現と切り離さず，リズム運動における基礎的技能を指すのであるが，基礎的技能のみをとり出して鍛えるというより，主として表現と結びついてより良い表現を生むための手がかりとして位置づけられている。基礎的リズムの指導は，出来上った型を教授する方法に流れ易いので注意を必要とする。

具体的に個人技能として修練される運動の要因には歩・走・跳躍・屈伸・回旋・回転（自転または移動を伴なう回転）捻転・振動・倒・平均・波動・緊張と絶緩（脱力）・ずらす（身体各部位をそれぞれ反対側へずらす）等があるが，之等の動きの種々な連続・組合せを考慮したり，即興練習として小題の直感的把握を動きに移す練習等がある。之を基礎として更に集団技能の段階的練習のあり方は，多くの事例研究を必要としている。

幼稚園における導入に基礎的リズムを与える学習指導に関しては，㋑確かなねらいをもって指導する場合はよい。㋺模倣活動の適切な雰囲気醸成のため必要である。㋩題材による展開時の運動量の不足を補う。等の所見が教師より述べられている。しかし戦前における基本練習のあり方が教師自身の修練時代の体験を通して残存する姿として現われる場合は問題としなければならない。

幼児は興味を持つ対象に対しては，予想外の活動量・表現力を示す。題材蛙の導入に際して話し合いにより，蛙の色について二・三種の問答を十名余りの幼児と続け，活動開始の合図をするや否や，全幼児の蛙跳が開始され，速度・リズム・強弱の変化を与える目的で伴奏楽器を奏す音も，幼児達の跳躍毎の騒音に消滅する状

態となった。この実態によっても，今一つの問題であるリズム遊びの運動量に関しては，模倣内容の展開の工夫いかんにより即座に解決でき得ると考えている。型の教授は従来なされている手順に従えばよいわけで，比較的容易である。容易であるためか実際の指導に当っては学習指導時間を延長し勝ちになる。それに反して幼児の模倣性をよく理解し，良い題材による模倣内容を徹底的に実施するときには，常に学習時間の不足を感じ，導入のあり方の再検討が必要となってくる。結極は幼児の興味の持続の可能な真の模倣学習の幾題かを消化し，その結果の考察による指導の改善を計る営みを体験するのが先決問題であると考えられる。

③話し合いの進め方に関して

題材に関する視聴覚的資料に基づき，教師の観察・経験・空想的物語等によって開始される教師対幼児の話し合いの進め方に関しては，年長組・年少組の各々に対して段階的に指導する配慮が望ましい。年少組に対しては教材に関する簡単な情景を提示して，之に対する観察・経験・知っている事柄について話し合い，引き続きそのものになって動く。動きの反復実施の過程で更に動きの徹底確認の話し合いがあって動く。次にその情景の展開された場面の動きを表現する発展段階に関する話し合いがあり，模倣活動は漸次進行を続ける様相となる。年長組に対しては，対象の経験内容に応じて二・三の情景設定を纏めて，短い一つの物語として話し合いが十分に行なわれる間に幼児の模倣に対する良い工夫も出現し一層興味も深まり，更に話し合いは活発となる。こうして模倣内容に対する簡単な見透しを持ち，一応の理解を確認した後に最初の情景から順次に活動が開始されるのである。必要に応じて簡単な役割を決める話し合いが加えられる取扱いは，模倣を劇的に運び内容を豊かにする。

幼児の発言は或人数の特定者に限られる場合が多く，発言内容は断片的で教師の助言を得て漸く発表内容の徹底をみる事態も屢々ある。又教師の適切な指導により，発言の督促・要点外にそれる話の打切り及び誘導・消極的な幼児への激励などが可能となる。模倣学習がよく進められる場合には，話す内容は皆に理解して貰う，他人の話は静かに聞く，特定の幼児が話し続けないなどの要点は順次指導して学習の能率をあげる。

要するに幼児は友達を前にしての発言に大きな抵抗を感じるという心理作用に適合するように，目前の効果を急ぐより，忍耐力を持ち，次第に幼児の話し合いに対する積極性を増す努力が肝要である。

④　その他の実際例による導入に関する問題点。

例6のように導入の段階においてリズム感修練のために実施した歩及び歩の応用・走及び走の応用・その他のスキップ・ギャロップ等の応用練習が，展開段階の二人組，四人組の遊びに容易に転移され，楽しいグループ遊びに発展できた例は，貴重な題材例と考えられるが，一面には，導入に基礎的リズムの練習形態をとらず，直接に模倣内容を豊富に誘導する導入を考慮する指導を試みる際には，更に個性が豊かに表出される学習活動の期待が可能であるとも考えられる。これは必らず比較検討されるべき重要な問題であると思う。

今一つの事例は，年少組に対して教師の熊と兎の物語中に二女児が，教師の話す言葉のリズムに調和させ兎跳（後足をはねあげる）を継続して一巡し，又教師の物語を聞く状態を続ける様子を観察した。物語終了後の模倣段階に際して，教師の与える伴奏音が緩徐過ぎ，幼児の兎跳は両手が耳の両足跳となり，二本足の模倣で終止した所謂概念的な表現となった。個人の自由表現の当初は，むしろ伴奏音を与えず，各個人の自由な観察・思考による自由なリズムの動きで開始され，その状態を観察し，適宜次の段階への指示が望ましいと考えられる。この間において題材に対する幼児の観方・考え方によるとらえ方を理解し，基本のリズムパターンをとらえる等で，次時の展開段階を容易にし，又

工夫の余地を次第に多くする指導となる。

⑤　模倣における展開上の問題点とその考察に関する項。

模倣表現学習において現場の教師達の常に焦点となる問題に「模倣の内容のとらえ方」がある。例えば動物に類する題材は一応好例題としてカリキュラムの構成内容となっている。しかし実際指導は簡単な内容の展開に終り，短時間で模倣の終了をみる点に困惑すると聞かされている。これは小・中・高校におけるリズム運動・ダンス・舞踊創作に関する学習指導法の現時点の問題でもある。ダンス学習指導の変換をみた今日において，漸くその内容の概括的把握の終了した段階であって，体育を知識教科とする細部に亘る指導法の研究は今後のもっとも重要な研究課題になるのである。

指導展開の実際については，幼児の興味の対象となる情景の設定を工夫する。㋑動きの要因の基本的な歩の変化範囲を考慮して情景設定をする。この場合の留意点としては速度・リズムの応用変化が容易に伴なう情景とする。即ち象の歩行・山道の昇り降りによる速度の変化・一本橋を渡る・小川を跳び越える・方向転換（廻れ右等の軽快なリズム）が模倣の内容となる。速度の変化については与えられた音（ピアノ・オルガン・タンバリン・拍子木・ハンドカスタ・木琴・拍手・足音）に対して即応できる身体の機敏性を必要とするが，幼児は一応積極的な興味を示し活動的に動く。詳しく観察する場合には，与えられる音に対する以上に，与えられる具体的な動きに興味を示す幼児の特質を知る。㋺幼児の興味の対象は実際の象の生活よりも，サーカスなどで行なわれる象の曲芸であることを考察して情景設定をする。挨拶の種々・碁盤上の回転・平均台上の前後進・ボールを高く投げる・丸太棒を押す競争など。又は劇的物語として土人の襲撃に合い激しい闘争・象対象の争いなどと設定する。㋩その他の生活動態から情景設定をする。池で水浴び・水のかけ合い・吸い上げた水を空中高く吹き出す動きの反復及びリズムの変化（実際は㋐吸うて㋑しゅーっのリズム言葉を与える動きにより興味深く反復練習ができる。）鼻を巻いて寝る。小さな尾が動く・大きな耳が動く等が考えられる。

㋑㋺㋩の諸情景より適宜選択して模倣遊びの学習となるが，もっとも重要な指導の要点は情景に則した遊戯室における遊びの場の構成を工夫して与えることにある。この周到な工夫により始めて模倣活動の容易を期し，またその充実を計った題材展開例の実現となるのではなかろうか。模倣経験の少ない幼児に対しては一層準備する材料の種類・量の増減が題材に対する幼児の興味の持続に影響する。例4にみるように題材に対する取扱い方により，模倣活動に男女差のみられる対象に対しては此の措置により多少の抵抗感は減少できる。実際には種々の積木を利用する——象の小舎・友人の家・一本橋・曲芸をする碁盤・材木置場・高い場所を造る等——ビニール管・布で池を造る・又は白墨で場を簡単に設定する等で情景設定を豊富にする試みは直ちに幼児の諸活動に良い変化をみるのである。例えばあしかの池・熊の檻・猿の庭園と白墨（竹の棒の先に白墨を括りつける）で場所を示す場合は，幼児同志で与えられた場所を確認する積極的な態度が現われる。勿論，あしかが餌を投げ与えられる情景により匍匐態勢の活動が最高潮に達する頃は，白墨の池は殆んど消滅する。然し幼児は劇的場面のリズミカルな活動展開を満足し，餌を与える役の教師の後を追う模倣が嬉嬉として反復される活動状態となる。

筆者は題材めだかに関しては，三幼稚園で4組の幼児を対象として（年長組三，年少組一）学習指導を実施している。級を二集団として各組に積木で家を造る情景を説明し，一人一個の積木を使用して皆で一つの大きい家を造るように指示を与えた場合は，年令・経験の相違により受け取り方の差異が生じて作業は停滞勝ちとなる。即ち年少組は各自が二個三個の積木を使用して自分の家の構成に興味を持ち，年長組は作業内容は理解出来るが，大きい家の立体的構成に興味をもつ。このように簡単な場の設定

に対しても一つの興味に片寄りすぎて徒らに時間を費やす状態となる。最終的には㋑板書の図示による説明㋺一人一個の積木を持って話し合いの場所へ集合㋩教師は場所を指定し，与える場の輪郭を白墨で示す㋥グループ毎に作業を開始し，終了後は元の場所へ集合する。この段階を経て適切な指導により次第に幼児が自主的に場の設定を行なうことが出来る。幼児の側の協力により漸次，教師より与えられた約束を守る。引き続き約束に対する心構えを確立し，安全に関心をもった行動の処理，作業能率を高める行動の仕方の理解に達するまで教師の配慮を必要とする。

場の設定を計画実施し，その過程に幼児の模倣活動を活発に展開する学習指導は，幼児の興味の中心であるところの劇的要素を多く持つリズム遊びの展開が期待できる。今回の例題の多くは此の点に関する配慮が少なかったと反省している。即ち模倣の第一段階であるところの題材の持つ基本的リズムの応用変化をねらいとした情景設定を計画した関係上，模倣のダイナミックな劇化が少なく，動き自体も比較的概念化された模倣に終始する様相が見受けられていて，幼児の優れた直感力を基盤とする個性豊かな模倣表現は多いとは言えず，模倣の初歩的指導段階に留まる観は否定できないようである。

場の設定の工夫は施設・遊具の使用より，友達同志が交代し合って遊具の役をする。更に進んでは実際上の設定を省略して，遊びのなかであるものと仮定し定められた場所の活用によって模倣学習の能率をあげ，また充実を計る方法が望ましい。

めだかの題材は回を重ねる度に漸く劇的要素も加わり，最終指導を実施した浜田市立松原幼稚園の年長組に対する学習指導においては，幼児の側より新しい展開段階として鮒・沙魚（ごりっちょ）の模倣活動が男児グループより提案されたのである。そしてその動きは現在までの幼児の模倣内容の技能と比較した場合，最も困難な技能による程度の高い模倣が出現していた。これによりこの種の題材に対する幼児の興味の自然的表現を知ると共に，リズム遊びに関する能力の適時性と考えることもできる。

幼児の題材に対する特徴の把え方には，幼児のものの観方・把え方の特質がみられるが之に関して考察をする。

亀類に関する幼児の模倣活動は，匍匐態勢を以てその特徴とし更にそれを誇張するように見受けられる。他の一般的な題材に関しては「動くもの」を興味の対象とし，題材のもつ外型と型の持つ動きの感じを同時に直感的に把えて，移動を開始するのが幼児の模倣の特徴とみられるのであるが，魚類の模倣は完全な型の模倣から入ると観察された。之も矢張り幼児の持性である写実的な観方による優れた直感力がはたらいて匍匐態勢をとるとみてよいのであろう。之に関しては松江・浜田両市の幼稚園の学習指導によって同質の観察をしたのであるが，発展段階として持徴の把え方を速く泳ぐ状態と指示を与えた場合は，それぞれの模倣表現に質的差異が現われる。即ち一園においては（年少組）即座に立ちあがり，両腕を体前後に伸ばし軽い波動を伴ないながら軽快な走の表現となり，一園の年長組においては，匍匐態勢を継続し，両腕を曲げ両肘を同時に力強く動かし懸命に兵隊の匍匐前進を開始した。前者の模倣表現に接しては，計画した発展段階に則した模倣となったのを喜んだが，後者の模倣表現に接しては，幼児の新鮮なアイディアに感動をさえ覚えさせられたのである。もっとも前例のリーダー的存在は女児で，後者は男児であった。また前者の園においては年長組・年少組に同様の模倣が表現されている事態から過去の同系統の経験に基く結果の動きによるとも考察される。後者の場合は匍匐前進する幼児に次の模倣展開に処する意図より各自の体の前傾を保ち両腕を使用して，魚の体長を表出して走る説明に少し困惑があったが，実際に走る場合は体の前傾姿勢が保持され，魚らしさが表出されて良い模倣と確認できた。このような場合は，勿論教師の示範による理解は極めて容易であるが，年少児の一学期後半の時期には，時宜を得た要領の説明・演出豊

かな助言により，幼児の自発的活動に俟つところは可能であると考えている。

題材として「蛙」と「めだか」を比較する場合は，動きとなる特徴の把え方に容易性の差異のあることに気付いた。蛙の場合は「二本足を伸ばした滑稽な恰好」と直感的に観察でき，直ぐに活動的な運動に転移できるが，後者は直感的に把えられた形態は人間の生活行動とは反対の体位の体勢をとらなくてはならず，引き続き活動的な運動に転じ難い条件におかれて，幼児は困惑し模倣は一時停滞をみる。ここに指導の要点があるので，解決を急ぐ手順を与えるより，題材の卒直な生活・動態を理解する方向に眼を向け，情景設定に関しても助言・ヒントの与え方にしても，幼児の工夫の範囲が次第に広げられるように，受け入れる態勢を豊かに培う指導に留意しなければならない。

⑥　幼児の模倣力の考察に関する項

現代に生きる子供は，家庭・学校・遊び・マス・コミの四つの文化の織りなす社会で生長していると言われている。最近の幼児・児童・生徒の自己表現的な諸活動には驚くほどの発達を見られるのが現代的持徴であろう。

私達総べての人間は自己表現をよろこび，また他人のよい表現を見てよろこぶ感情がある。これは分析すると模倣本能・遊戯本能・自己本能などと区分されるが，初期には模倣本能に基く模倣的表現活動が多く，表現の自覚に伴ない表現的活動へと発展し，しだいに創造的要素の多い活動へ発達する。

自己を表現する活動は最近の心理学によれば，社会化の基本的要求に基く自然の行動と解され，人間はその生存を全くするために周囲に同化し，所属し，そして承認されることの必要を感ずる。そのため意識的にしろ無意識にしろ，他人の行動を観察し，興味を持った行動を模倣し，或いは自分の創造を加えて他人の前に表現しようとする。

幼児の模倣活動には

㋑　既得の経験をそのまま表現する狭い意味の模倣

㋺　自ら遊んだ形をとりながらそれは何らかの意味で過去の学習経験による既存の形態がとられているというような表現

㋩　創造に近い模倣で，模倣した形態がそのまま学習経験の中にない

㋥　自主的な創造

という段階的な様相がみられる。幼児のリズム遊びの模倣にも，この段階的様相がよく現われているが，瞬間的に消えてゆく動きの性格から，㋑㋺㋩の各段階が多人数の幼児の模倣のなかに混然とした形で出現していると見受けられる場合もある。もっとも肝要な指導は，題材による直接的模倣か，単なる他の幼児の模倣か見極めて，これに対する指導の手段を講ずることである。

次に題材による模倣指導の具体的例より模倣性に関する問題点を探ってみる。

最近模倣遊びの学習を進めて感じることの一つに，幼児の模倣性の予想以上に強い様相である。「めだかになりましょう」の設定に対し二・三人が匍匐するや否や全幼児が一瞬の間に匍匐態勢をとる。小鳥・蝶々の題材に関しても同様で，リーダー的存在の幼児により，その模倣は直ちに単一なリズムとして一般化され，第三者の眼からは概念的な動き方に受けとられ勝ちである。ここに題材に対する内容の把えさせ方の問題がある。即ち情景描写を豊かに与える助言が指導の要点となると考えている。これに関しては小鳥に例をとり説明する。小鳥の種類により模倣の内容となる動態には多様な姿がある。即ち両足跳で歩く，片足交互に歩く，首を振り振り歩く，跳ぶように走る，歩いては立止まり立止まっては歩く，回転しながら歩く，翅を動かしながら歩く，走っては強く跳ぶ，などを小鳥の種類と結びつけ，事実と想像を織り交ぜて内容設定を豊富に与える指導により，幼児は各個人に適当する受けとり方が可能となり，個性的な動きの模倣が修得できる。次いで自分で発見し模倣を育てる経験への機会を見出す学習へ発展できると考えられる。

経験の豊かな教師の学習指導に現われた模倣

としてしゃぼん玉遊びをあげてみる。

㋑　表現能力のある男女児二名は移動を伴なう特に高度な動きを実施する。

㋺　級の凡そ半数は横転による移動を伴なう動きで，特定者を除き他の幼児は特定者の模倣と見られる範囲の動きである。

㋩　前段階の模倣の反復で，多少高低の変化が現われたり，半ば自転する程度の動きである。

問題になるのは㋩に該当する幼児であって，模倣展開部分の動きに関する要領を反復説明したり，更に見方・角度を変えて要領を説明する。時には之に類する示範などが重要な指導になる。この示範についての留意点は，漫然と「○○君上手ですね。このように動いてみましょう」とは時に見受ける指導であるが，矢張り具体的に「○○君の膝がよく曲がって，○○の歩き方に似てますよ」と何を観るか眼のつけ所に注意させ，更に対象の特徴に結びつくように指導助言を与える。次いで問答により何をどのように観るのかを気付かせ，さらに各自の動きへ還元して模倣を豊かにする。しかし模倣学習に関する問題点の多い現段階では，この種の示範は効果が少ないと感じさせられている。あくまでも題材の観察による素朴な自主的模倣経験の積重ねが重要であって，題材による教師の模倣や思いつきの良い幼児の模倣であってはならない。

更に動きを充実する焦点について述べてみる。総べての幼児は軽快なリズムにのって大まかに動く活動をよろこぶ。この状態を観察すると，何となく手足が動いている活動をよく見受けるが，これでは模倣の活動にならない。そのものになり切る体の動き方・心の充実する状態が望まれるのである。単なる伝統的な可愛らしいお遊戯であってはならない。小鳥類の題材では殊に伝統的とみられる特有のパターンがあり，とかく概念的な把え方になり，模倣の容易な単一リズムの反復を全幼児が動く事態に至っては，自分で発見し自分で育てる経験への機会を見出せないのではないだろうか。模倣の学習指導により自発活動を期待することは容易であり，又自発活動によるのでなければ学習効果をあげ得ないと考えて模倣学習を充実させたい。

⑦　集団的行動のしつけに関する項

模倣の学習指導を観察し，または実際に実施して痛切に感じる問題点の一つに集団的行動に関する事柄がある。幼児の特質から学習時間の計画は短時間で学習能率をあげる意図より，集団的行動を順次的にまた早急にしつけをする必要を認めている。幼稚園生活のなかには集団として行動する場合が少なくないので，学習を生活の各場面の集団行動と結びつけて指導することが望ましい。殊にリズム遊びにおいては，比較的長期にわたるグループ編成や，臨時的に編成されるグループによる活動も行なわれるので，安全や能率の立場から必要なものを行なうべきである。

幼児に対して一般的に指導を必要とする行動形式には次の事柄が考えられる。

㋑　教室から遊戯室に移動する目的より，二人連手となり，素早く集合できた幼児を先頭にして二列縦隊に並ぶ。男女組構成による仲良し組は，遊びの種類・方法全般に亘って便宜である。遊戯室へ入室の際は紅白帽を着用する方法もある。

㋺　ピアノの前に集合する。或幼稚園では床上に弧の白線を描いて集合の目印とし効果的に活用している。

㋩　教室の正面中央に腰をおろし両膝を立て両手を膝上に組む。遊戯室内での正座は次の行動に機敏に移れず好ましくないので，座る目的を考えてその方法を決めたい。

㋥　二重円周上・一重円周上に立ち定められた方向を向く。

㋭　与えられた場所で自由隊型となる。

更に並びっこと称する遊びの経験より，教師の意図に近づけたり，集合のメロディ・合図を決めて場所・方向・方法（立つ・しゃがむ・座る・長座・両膝立・二人組で連手など）を約束させ反復練習によって記憶を容易にする。

グループ編成による活動は，個人の社会化の面と，興味や能力に応じて仕事を分担する個性化への面を収得できる重要な機会であるので，之に処する手段を構じて新しい環境へ適応させなければならない。

お　わ　り　に

東京オリンピック大会を契機として国民の体力づくりの問題が大きくとりあげられているが，また並行して「体力づくりは乳幼児期から」の標語のもとに乳幼児体育の再検討とその推進が国民運動として展開されつつある。

最近日本ではソ連の体育・スポーツ実施内容の紹介が盛んに行なわれているが，殊に乳幼児に対する発達段階の精細な観察記録を基盤に長期間にわたる医学者・教育学者・心理学者・実践家達の研究の成果である実践方法と理論的根拠に学びとる面が多多あることを教えられている。

幼児期より小学校入学までの時期は，人生におけるもっとも著しい発達と変化の時期であるといってよい。幼児の運動能力の発達は三才から四才にかけてもっとも著しく，また全身運動としての基礎的能力は四才から五才までの間に身につくのである。この幼児の運動能力の発達の事実から考えても，幼稚園におけるリズム遊びや体育的遊びが，子ども達の将来に，いかに重要な役割を果すかが理解できる。

松江市立千鳥保育園の三才児はM教諭の適切な遊びの指導により60%の男女児はスキップが可能であり，二才児も多少変則的なリズムではあるが，スキップの前段階が見られ，反射的過程をとって身につく身体活動力にはおどろく外はない。

四・五・六才児に接触して，打てば響く以上の強さと弾力性に満ちた模倣活動に，すっかり満足したのである。

現在の幼児の心身発達段階をよく理解し，環境との相互作用により次第に発達してゆく幼児の周辺より，よい題材を選択し，計画は或程度緻密に練り，楽しいリズム・ユーモアを交えたり，または劇的に題材内容を運ぶ学習指導は，幼児の興味を増し楽しい経験と共に，社会性の陶冶や集団生活の体験を得させ，また訓練の機会にもなると考えられる。

模倣遊びは幼児の要求に応じて自発的に活動させるのであるが，幼児を放任して幼児の好む極端な自由行動を与える学習ではない。幼稚園生活の大半は机と椅子に囲まれた生活である。そこで遊戯室はただ一つの自由の世界となり，一人が走り出すと全員が走り出し，一人の幼児が教師と手を握って引き合いをするのを見ると全員が教師の手を握ろうと大騒ぎを演ずるなどのように，驚くほどの生活力，行動性をもっている。こういう幼児達であるので楽しい模倣遊びの学習を期待するところは多い。また楽しい遊びを伴なう学習の場であるから容易にそれに伴なう規律は守る。そして協力する遊びの楽しさと並行して集団行動に関する「しつけ」を手順よく与え，行動様式の変容を期待することもできる。

学習指導に当っては題材のもつ活動を見透して，はっきりしたねらいを持たなければならない。リズム運動・ダンスの学習指導においては題材のもつ中核性の稀薄さが，よく指摘され問題となっている。幼児・児童の個性に応じ各自の経験に則した模倣表現にとり組む学習形態であるから，実際の活動・動きを予測するのは困難であるとの所見も考えられるが，この時期は写実性の芽生えが現われ，対象の把え方は総べて写実的な動き，活動に満ちている。純粋な模倣表現の幾題かを消化する間には，何をねらいとするかの見当は容易につく筈である。但し実際の学習に現われた幼児の発言・動き方・特徴の把え方・集団内の態度・安定度等に関する事項を記憶するために，工夫された記録帳の活用が重要である。

今後の課題としては，更に活動的な題材の選択発見に努めると共に，模倣遊びの系統性を重要視しなければならない。筆者は一つの試みとして例１２３・５６を順次的に年少組・年長組

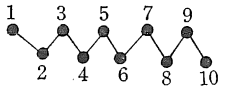
に実施して，年少組の題材内容を消化する能力を知ったが，年長組には更に高度な模倣活動を展開させたい。題材の選択は決して困難ではなく，教師の創作による物語・幼児のつくるお話も劇的題材となるであろう。

この研究を進めているうちに，更に年令を下におろした模倣遊びの題材選択の課題を与えられて，幼児との楽しい接触を期待している。

例 1　題 材　　スクールリズマーを活用したリズム遊び（其の一）

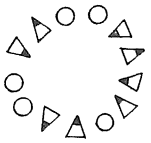
イ　歩く，4/4拍子，ビギンⅠ.M＝132
ロ　円周上を歩く。
ハ　円周上を走る。
ニ　円周上を兵隊になって歩く。
鉄砲を担ぎ，腕を元気に振って歩く，兵隊になる。年少組の大半は，鉄砲を担ぐ模倣が表現できず，躊躇がみられるが，棒を担いで，その状態を示めす場合は，直ちに，肘を曲げて，元気よく腕を振り，調子をとって歩ける。前進の8呼間，側進の8呼間，歩きながら回転，後進8呼を種々組み合わせて行進する。側進は，特に重心の移動が困難であるので，抜き出して，基本練習する場合も興味をもつ。また1呼間のアクセントをタンバリンなどで与える場合は，さらに動きの変換が容易になる。

ホ



両足斜前進跳

ヘ



両足方向転換跳

遊びの方法，○より○は両足前進跳
○より△は三角の頂点に向けて，方向を換えて両足跳をする。三角形の頂点は赤の白墨で塗り，年少組の理解を援ける。矢張り出発点は目印をして出発順位交代を早める。一学期間に一度個々人のタイムを計測し，機敏性向上を工夫して，興味の持続をねらい，日常時の自由遊びに積極的に参加できる種目のひとつを加えたい。

イ　速度の基準は，幼児の経験時数，遊びの内容による興味の度合いにより，変化がある。

ロ　常時の歩行練習は，自由隊型より，自由方向に歩行する経験が多い状態のため，円周上の歩行開始は良くリズムにのって前進ができない。然し，どんどん前へ歩きなさいの助言で漸次常時の歩巾，速度で歩くことが可能になる。

ハ　歩行時より，リズムにのり易い，但し，円周上を自由に走らせ，次いでリズマーの速度を幼児のリズムに適合さす場合。

ホ　床上に1～10の円を描き，年少の組には跳躍の順序・方法（跳躍後の幼児の位置）を説明する。10人に対し，1か所の割合で床上に準備する。
円の大きさは，距離，間隔，年令，経験，身長差により異なる場合は，跳躍のリズムにのり易い。年少児の円の直径15～20糎位，斜めの度合を少なく，15～20糎位離す。さらに円を白墨で塗りつぶす場合は，跳ぶ順序を容易に理解できる。慌てる児は，2，4，5，6，7，8，9，10と跳ぶ傾向がみられるので，1の円の手前に出発時の位置を示めし，遊びが容易に続けられる場合は之を消す。遊びの途中，円が消えるので，常に描き直して，遊びがよく継続できるよう工夫する。
この種の遊びが常時，反復練習ができるように消えるペンキを利用して，遊戯室に備える場合は，遊びの発展が種々考えられて，幼児の機敏性を培う方法として望ましい。
リズマーの全楽器を使用して鮮明なタクトのリズムをつくる際は，女児の大半の両足跳はよくリズムにのる。男児の大半は，バックタクトを考慮にいれず，各自の好きな速度で軽快に跳躍を続ける。

例　2　題　材　　スクールリズマーを活用したリズム遊び（其の三）

イ　せっせっせの三拍子遊び
スクールリズマーを活用したリズム遊び（其の二）で実施したせっせせっせを三拍子に構成してリズム遊びとする。
二人組となり，腰をおろして向かい合う。

ロ　めだか遊びへの導入のための話し合い。
これから，この教室を全部池にして遊びましょう。池の中にはどんなものが泳いでいるかな。幼児―めだか，どじょう，おたまじゃくし，えび，たこ，かたつむり，etc，たこは海に住んでいるから池にはいないと簡単に答え，かたつむりは泳ぐかな，はっぱの舟があったら池の上で遊べるねと返事しておくが実際は，角を出しながら水の縁を渡り歩く事実を，柳原教頭教諭に教えられ，苦笑させられる。

ハ　めだかの家を作りましょう。男児組が先に室の片隅に，椅子を利用して，家を作るの指示で，年少組は一人で２・３個の椅子を運んで個人々々の家を作りかけけるので一人で一個の椅子で，皆のアパートのような大きい家を作り，玄関をつける約束をする。女児には最初の部分を教師が手伝い，場の設定を急ぐ。

ニ　第一の情景――家を出て，広いお池を二回泳いで家へ帰る。女児は泳ぎ方―移動―が細かく，広い場所を活用し，家の各自の席まで，めだかになれる。男児の泳ぎ方は，スピードはあるが移動が少ない。

ホ　第二の情景――池の中に大きい石ころ―積木―があるので，高く跳越えて家へ帰る。

ヘ　第三の情景――石ころの陰に―場所を白墨で書く―飼があるので，食べて帰る。

ト　年長組に対しては，めだかは，細くスマートで身軽に泳いでいるが，どんなダンスを踊るか見せて欲しいと提案する。

チ　８月16日浜田市立松原幼稚園，原井幼稚園において同題材について指導した場合には，お母さんめだかが先頭で，岩をとびこえる，跳箱をとび越えるなどの活動が実施される。又遊びの展開として，川の中に住む他の魚（鮒・ごりっちょ）を選択し，好きな魚の模倣の際は，泥の中にもぐり込む魚の状態が表現され，豊かな模倣量の多い活動となる。

イ　せ　ー　せ　　せ　ー　せ　　ぱ　ー　ん　　ぱ　ー　ん

二人組で両手をとり合う場合，次の動きを容易にするための座り方があるので，それを確かめ，二人の座り方を直す。
三拍子を基本とするせっせせっせ遊びは，三タクト一動作となるため，リズムのとり方，動き方が，二拍子のそれと比較して多少困難となる故，年少組に対しては，リズム言葉を強調しながら，動きのリズムを示範する必要もあるが年長組は握った両手をゆっくり動かしましょう等の助言で，リズムをつかむ。又遊びの展開は，三タクト１動作のリズムの生かされ易い動きを考慮にして与える。例えば手首を廻す反対の手首を廻す。両手首同時にくーるくーると廻す，お鼻を人差指で押えて，そーっとそーっと。蝶々のようにひーらひーら，交代に体を後倒してゆーらゆーら（舟をこぐ動きと解ると，大喜びで反復する。児童の状態により運動量を大にする意味で，暫く繰り返えさせる。）かーらすかーらすで手の甲を指で摘まみ，また反対の手の甲を摘まむ。更にたーってたーってで立ち，とーんでとーんでで両足跳を二回行ない，あるいてあるいてで一歩側方に進み，之の位置へ戻る。これが発展して三拍子歩，ワルツに発展できる。

ニ　「めだかさんになって」で幼児は直ちに俯せになり片腕を頭上に出し，小刻みにひらひら動かす。以前に類似の題材で模倣遊びを実施した影響かなど考え，特徴のとりあげ方を「すいすいすいと速く上手に泳げる」と助言すると，今度は立ちあがり，両腕を体前，体後に伸ばしひらひらさせてすいすいと小刻みに足音を消して泳ぎまわる。男女組を交代して行なわすが，男児組の模倣を最初に行なって励まして動かす。

ハ　年長組に対しては，各自一個の椅子を利用して，みんなの住む大きい家を造る状態をよく理解させて，要領よく家を造る。

ヘ　飼の食べ方は，両手で素早く掬って，自分の口へ運ぶ。

ト　女児はスカートを持って回転する，脚をあげて人間の踊りとなるが，比較的人数の少ない男児組は踊りは厭だと口々に言うので最近はモンキーとか新しい踊りが沢山あると助言すると，漸く両手を握り，体前でくるくる廻しながら泳ぐ表現となる。

例 3　題材　「一畑パークの動物達」

イ　一畑パークへ遠足にでかけ，見た動動の名前をあげ，興味のあったできごとを自由に話し合う。 ロ　幼児の発言内容を深め，もっとも興味の持たれた動物である「猿」「あしか」「熊」を題材とする。 ハ　好きな動物になり組分けをする ニ　竹の棒の先に白墨をくくりつけ，棒を大きく動かして，あしかの池，猿の檻，熊の檻をつくる ホ　「熊さんの真似のできる人」の問で一女児が挙手をし，指名されて元気にのそのそ歩く。四つん這いに歩いているが，とき折，前足の片方の腕をぐるりを大きく廻して歩く模倣が熊の威厳のある歩き方になってよい。 ヘ　「あしかの真似のできる人」の発問で一男児が挙手をし，指名されて元気に歩く。 ト　「お猿の真似のできる人」の問では遂に挙手がなく，教師が模倣を始めると，かえって幼児が喜ぶ。 チ　それぞれの場所につき，その動物になって，のそのそ又はちょこちょこ歩く。 リ　教師は，それぞれの檻に近づいては餌を投げてやる。あしかたちは，教師の投げる餌の動きに合わせて匍匐態勢より，膝を曲げてしゃがみ，立ちあがりながら跳躍する動きを，素早く行なうので，よい模倣となる。 ヌ　檻を交代し，動物の模倣を交代して遊ぶ。	イ　象・熊・兎・猿・あしか等の動物の生活・動態がよく発言される。教師は，発言の少ない幼児におもしろい様子，できごとを想起させるように助言する。動物達の活動と共に，乗り物の楽しさ，お弁当のおいしさ等も話題となり一畑パークの楽しさが倍加され，益々発言が活発となる ロ　動物に対する興味・愛情を，彼等に餌を与える状態で表現する幼児たちの傾向をとらえ，動物ごっこが始められる。 ハ　教師の適切な助言で，全員がおおよそ三等分され，好きな動物の組編成ができる。 ニ　幼児は竹の棒で描かれる様によく注目し，いち早くその中に入り，棒の先を見送る。さらに教師は椅子の背に動物の絵を貼りつけ，定められた場所を間違えぬように，それぞれ全員で繰り返えし言い合う。 ヘ　匍匐前進を緩徐に行ない，後足が十分引きつけられては伸ばす前進となり力強く機敏に動く。 ト　教師の模倣は，両腕をよく伸ばした四つん這いとなり，指先をまるめて，猿の感じをだす。 チ　同一のタクトを与えても，適当にリズムをとって，歩く，走る，小走りなどをするので，動物の感じは一応出る。 リ　檻毎の動物にそれぞれ特徴を与えてリズム言葉の助言がなされるので，幼児はよい模倣をする。ヘ，の表現が良好だったので，今一度示範させ，足の運び方のどこがよいか，ゆっくり説明して観察させる。各自の足を運ぶ要領を理解さす目的の為には，運動の要領を説明するための，ポイントの把握，説明の順序，何をよく見るか等が必要である。教師は素早く動いて，餌を投げるので，早く移動してはヂャンプを競う直剛な模倣となる ヌ　教室の広さに比較して，狭い場所の檻なので動物の種類によっては，模倣の行動範囲が小さいのが惜しまれる。場所は常に最良の条件を与えたい。

例 4　題材　積木遊び　年少組

準備　ピアノ，タンバリン，集合のライン，レコード

イ　教師のピアノ奏 ロ　真中に集まりましょう。手が当ったり体が当ったりしないように，場所に気を付けましょう。 ハ　ピアノ奏（歩） ニ　ここはどうでしょう。自分で場所を見付けて。 ホ　ピアノ，どんどん音が出る程歩きましょう。 ヘ　今度は音がしないですよ，そーっと，そーっと ト　ピアノをよく聞いて合わせますよ。 チ　そこに一寸座りましょうか。 リ　（ピアノを弾きながら）さあ歩きましょう。ピアノの強い音に合わせて，好きな格好をして立止まりますよ。強い音で直ぐ止まります。そう，いろんな止まり方をしていますね。	イ　幼児達は従前通り，教室の定められた位置に(円周上二列)立ち，愉快気にスキップを始める。 ロ　二重円になり同一方向に位置する。 ハ　歩行を続けていると，円周上の位置が乱れ，各人の前後の距離が開きすぎる組もでる。 ニ　一部の幼児に手を添えて距離を直してやると，他の幼児達も各人の前後をみて，位置を正しくする。 ホ　全員，足音が揃わず，上手に出来ないが懸命に足音を出そうと頑張る。 ヘ　足音を忍ばす動きは，ピアノ曲によく合って上手である。 ト　大きい足音，小さい足音を交互に出して大喜びをする。足音の変換が見る間に上達してピアノによく合致する。 リ　この種の遊びをよく行なっているので，止まり方に変化があって面白く，足を前に出しかけて止まる，腕を振りかけて止まる，後方を振返って止まる，ものを拾う格好で止まる，握り拳で止まる，等変った型を各自が楽しんでいる様子が判る。何回続けても，次々変化のある格好を案出できる幼児が過半数を示める。

ヌ　次は合図で二人組になりますよ。
ル　次は二人で好きな格好をしますよ，
—7，8回
オ　さあ，みんなここに集まりましょう。
（幼児の前にピアノの椅子を運んで腰かけるが，話し合いの良い態勢となる）
この部屋の中には，いろいろな遊び道具があるでしょう。幼児達—積木，ボール，おままごと，輪。
ワ　積木でどんなものをこしらえるかな，幼児—ひこーき，おうち，汽車，船，階段。
カ　積木はどんな形をしたのがあります。幼児—三角・四角と賑やかに発言する。
ヨ　柔らかいの，固いの，幼児達—固い。
タ　どんな音がするの，幼児—がらがら，どこん，どしん，どん等
レ　高く積み上げた時はたくさん落ちますよ，幼児—どどどーん，どどどどどーん
ソ　そう，四角で大きいのも小さいのもある，まだ他にどんな積木を知っているの。
ツ　この場所をみんな使って，四角い積木さんになりますよ。タンバリンで合図をする。
ネ　今度は三角さん。
ナ　長四角はどうするの。
ラ　早く二人組になって，積木の歌を教えてあげたね。一寸広がって
ム　両手を使って，積木さんになりますよ
——二回
ウ　両足を使って，——三回
エ　次は4人組になりますよ。
ノ　四人の積木ですよ。
オ　1番目2番目3番目4番目さんと相談して決めますよ，1番さんと言ったら，1番さんが立つのよ。
ワ　さあ，始めますよ，歌いながらピアノを弾く1番さん積木になるのよ，2番さん，3番さん4番さん，出来ましたね。ガタガタゴットン—ピアノ。こわれました，しゃがみますよ。
カ　今度は4人が相談して何かをこしらえるのよ。
ヨ　立つて決めたものをやつてみましょう。
タ　○○君の組やって見せてくれる。何だったロボットですって，一生懸命考えて拵えましたよ。
レ　○○さんの組やってごらん。お花の国は円陣になって長座となる。
ソ　○○さん達の組，何でしたか
ツ　次の組は汽車です，長い積木が重なって汽車になりました。
ネ　はい，今度はロケットですよ。
ナ　次の組は，前と同じようにお花でしたね みんな歌って下さいね。
ラ　この組はお家を作って，ロボットが入ってくるところです，一生懸命やっていますよ，よくみて下さい。
ム　お友達と二人になります，できた組は座ってごらん，積木はこれでおしまいです。みんなよく考えて面白いものを作ってくれました。さあフォークダンスをしましょう。
ウ　「拍手で今日は」をする。

ヌ　教師は二人組を早く作れない幼児の位置を見極めて，指示を与える。
ル　二人組の幼児は，なかの手を握り合い，よく振って歩き，ピアノの強い音で止まって好きな格好で止まるが，1人の際の止まり方の延長を何となく形作る組が多い。一部の幼児には，一人がくるりと廻れ右をして，相手の手をとって，臂を伸ばしたり，床上を使う組もあり，変化のはげしい組もある。
オ　話し合いの場—ピアノの前に集合する。私語，咳など，楽しく活動できた後のざわめきがある。
レ　賑やかに自分の声を出し，そのリズムを楽しんでいる。
ソ　幼児達，一穴のあいてるの，四角い固い，三角，長四角。
ツ　床上に長く寝そべり，幼児の一人は，腕を横に出して，四角になろうと努力する。
ネ　膝で示めす幼児，手，腕で三角を示めすものが四・五人いる。
ナ　幼児達は，寝た状態で，体をよく伸ばす。足を十分に伸ばすのもいる。
ム　教師はピアノを弾き，リズムを強調して歌いながら，幼児の四回になって終る動きを見守る。手を使っての方法であるが，始めから，手と足を使う組もある
エ　タンバリンの合図で，素早く四人組を作る。教師は四人編成を手伝う。
ノ　歌に合わせて，何となく形を作ってよろこぶ。
オ　教師，それぞれの番号に相当する幼児を確認する。
ワ　こわれる状態を好み，各自が作った形を，ぱっぱっとこわして，勢余って，男女児組のおんぶの状態もでてくる。
カ　教師は一組一組に何を決めたか聞いてまわる。
タ　ロボットは両臂を曲げて上挙し，握り拳をつくって力んで見せる，終って先生拍手をする，幼児達も一斉に拍手をする。
レ　両手を握り，両足をあげて重ね合い，お花が咲いたと大喜びをする。
ソ　発言が小さく，何の積木か理解し難かったが，先生が助けて，うさぎが1人，りす1人，あひる一人が，ぴょこんぴょこんと向かい合って，形をつくる。3人組の女児達の故か，もっとも静かな模倣になる。
ツ　先生は，楽しそうに幼児の汽車の積木を次々と手で触ってやる。
ネ　幼児は，それぞれ，両手をまるく上挙してロケットを勇ましく形作る。
ナ　立って円陣となり，両手を前に出して重ね合うが，2人は手をつないで，もごもごする。
ラ　発言が不明で理解し難かったが，先生の助言で漸く理解できる。家の形ロボットの進み方がリズムに乗れず，苦労するが，先生のリズム言葉に助けられて，最後にはポーズができて，にっこりする。

。積木遊びは，前週に引続き二回目の指導になるが，四人組の遊びは，少し程度の高い内容を要求する事態なので，四人で相談をまとめるより，仲良くできたら良いと指導案が作成されている。難かしい部類に属する題材をとりあげた故に積木遊びも，単に形を作る（ポーズ）が主体となるが表現力を高めるねらいをもつ効果がある。然しあえて指導した積木の形，固さなどの動きを表わすのは，抽象的になり易くこの学習展開の導入としては，直接的効果は少ない。

例 5　題 材　　ボール遊び，二幼稚園に於いて，年少組，年長組を対象に実施する。

イ　基礎リズム 歩く，大股歩，走る，膝をあげて足音を強く出して歩く，後方に歩く，スキップ。 ロ　之は何でしょう。 ハ　うわー，皆さんは英語を知っているのね，日本では昔，ゴムまりと言ったのよ。みんなはお家でボールを持って遊びますか。 ニ　そう，みんなのボールは，どれ位の大きさなの，先生に教えて頂戴。 ホ　よく判りました。このボールはこの大きさね。 ヘ　今日はみんなボールになって遊びましょうね，さあ，ボールのように体を丸くしてごらんなさい。顔が先生を見ていると上等のボールになれませんよ。 ト　さあボールをとんとんしますよ。音をよく聞いて，音に合わせて跳びますよ。 チ　今度はボールをよーく見て下さい。 リ　緑の好きな人は緑，赤い方を好きな人は赤になって下さい。緑に決めた人は手をあげて，赤に決めた人は手をあげて。 ヌ　先に緑です。ハイとんとん，次は赤です。ハイとんとん，次は緑です。ハイとんとん。 ル　今度は難かしくなりますよ，よーく見て下さいね。 オ　次はボールのお散歩です。どこへ行くかよく見てて下さい。走りながらボールをゆっくり3回つき，室を往復して，ボールの動きを見させる。 ワ　今度はしゃがんで，ボールがどうなるか見て下さい。ボールを2個同時にゆっくり転がす。 カ　ここにいいポールがありますよ，よく見て，どこが自分と違うか考えて下さい。判った人は上手に真似をしてみましょう。 ヨ　全幼児を二組に別けて横転ごっこをする。出発点と到達点をチョークで書いて示めし方法を説明する。	イ　二垂円になり，同一方向に並ぶ，強い両脚跳を実施するねらいをもつ題材であるので，足首を十分動かす考慮をする。前方への移動が主となるが，漸次後方の移動を加え，更に側方を加え，練習が進むときは，回転も行なう。 ロ　ボールを二個それぞれぞれ掌上にのせて示めす。幼児―ボール。 ハ　得意気な笑顔となる（年長組） 全員の元気のよい返事を聞くと，リズム遊びの楽しい雰囲気が感じられて，教師も心弾む。 ニ　年少組もよく理解できて，それぞれの大きさを，両手の指掌，腕を使って示めす。予想以上に小さいボールが多い。 ホ　ボールを両手に持ち，ボールの大きさを保持したままボールをストンと下に落とす。 ヘ　年少組もよく理解でき両膝を抱き背を丸める努力をする，年少児2人，顔をあげて教師を見る。 ト　二つのボールを同時にゆっくりついて（或る程度練習を要す）大きい音を出す。幼児達は無中になって跳び続ける。 チ　速度を倍に速めてボールをつく。リズム言葉でボールの音を強く出す。幼児は引き続き足音を強く出して跳ぶので，リズムが合わなくなるが，難かしい速度であるので，自由に跳躍を続けさせる。 リ　年少組も，迷うことなく，僕みどり，僕赤，わたし赤と予想以上に早く決定し，次の指示を待つ。 ヌ　ボールを，二回宛，三回宛と漸次多くする。自分の決めたボールをよく見ながら，ボールのリズムに遅れまいと努力するが，幼児の上体は直立に近くなるのが多い。 ル　緑のボールを，高くポーンと天井までとどくように強くつく，繰り返えす。年少児も高く跳びあがる要領を心得て天井を見ながら跳ぶが，速度が多少速くなる。先生もっと高くついて見せてと年長組男児の要望があり，はねあがるボールを見てよろこぶ オ　年長児は，教師が1往復するのを見て，直ぐ活発に前進両脚跳を始める。年少児は1往復半で，3人の男児前進を始める。これまでその場跳躍の種々を行なった幼児が移動することになる。 ワ　年長，年少組ともに横転（体）が理解できて，年長組は場所を探して，年少組は，ところ構わず横転を始めようとするので，場の設定を必要とする。年少組の1男児は，床の上に体を丸めてから横転を始めるので，ボールの感じがよく出る。 カ　年少組であるので，差異点がよく摑めず，変化の少ない横転を繰り返えす。 ヨ　年少組は競争の意味が理解できず，戸迷う態度の幼児が多いので，説明を繰り返えし，漸く遊びが開始される。年長組は，横転に速力がつくので，方向変換するものが多い。

例 6　題材　　レコードによるリズム遊び

イ　遊戯室に入り準備をする。 靴はきちんと履いていますか，ポケットの中に，あぶない物は入っていませんか。お隣の人のも見てあげて下さい。 ロ　ピアノ曲に合わせて，歩・走・スキップ・ギャロップをする。広く使わせ，ピアノの高低・速度の変化を，次々に与えて動きのリズムに変化を与え，十分に動かす。 ハ　ギャロップは，あっちへ行ったりこっちへ行ったりしますね，そうそう，この線（床の板の接ぎ目）の上を行って見ましょう。向うにお客様がいるでしょう。今日はをして，こちらへ帰って下さい。 ニ　これから楽しいレコードを聞きましょう。全員拍手しながら，よく聞きましょう。 ホ　レコード曲について感じたことをお話して下さい。どんな気持がしましたか。どんな動きをやってみたいですか。 ヘ　そう，どっちもさせてやりたいですね。自分の好きなように動いてごらん，レコードをかける。 ト　○○さん，やって見せて下さい。 チ　上手だったわね，今度は○○さんやってね。 リ　○○君……（スキップだけであるが，回転をとり入れて，堂々としたスキップを見せる） ヌ　今度は２人組になって，工夫して動いてみますよ，……スキップだけでなく良い知恵が出ました。お花が咲いたり良かったですよ。 ル　次は４人のグループで協力して動きますよ。（次に各グループ活動をみる） お友達のグループの表現を見て，よく工夫し協力しているところを見つけましょう。 • ４人がそれぞれ円周上になり，同一方向にスキップをし，両手をキラキラさせたりする。 • 連手となり，右へ駈足でまわる。次は１人宛自由に何となく動き，又４人組でまわる。 • ２人がトンネル，２人は汽車となり，くぐっては回る，次は４人組連手となり回わりかけて終る。（汽車の回わり方は，移動が小さく交代はない） • ４人連手で走り，手を離して汽車になり，更に４人になって，花を作ったり，蝶々，トンネルになる（もっとも活動的な４人組で，よくリズムにのる） • ２人は中央に向かい両手を握り合ったり組んだりする，他の２人はこの周囲をぐるぐるスキップで回わる。更に４人で円周上を移動する。 • ４人連手で走り，一人は中央に入る。更に５人で円周上を両足跳で回わる。 オ　１人で動いたり，２人や４人で動いたが，どれが一番楽しかった。 ワ　たこの曲のフォークダンスをする。	イ　運動靴を左右正しく履くように注意して，幼児達を見廻る。ポケットはお互いに確めさせ，一人一人を見まわる。 ロ　スキップの際，５・６人の幼児が腰に手を当てて，前進をするのを，上体の動きが不十分になると注意を与える。 ハ　ギャロップのリズムは，側方に移動する状態のみ意識し，乱れる幼児もあるので，示範をして上手に跳ばすが敏捷な幼児達は，直ちに模倣できる。板目の線上を跳ぶ方法に興味を持ち，下方を見ながら賑やかにギャロップをする。（ゆきすぎになると動きが縮小することになる）研究授業参観の先生方にお辞儀をしては，ギャロップで楽しそうによく弾んで帰ってゆく，歩・走・スキップは，大体二重円に位置して練習を始めたが，活動的な幼児が多く，三重・四重になりながら，衝突もなく元気いっぱい跳びまわる。ギャロップの練習は，注意しないと，同一方向の反復になるが，必らず反対方向を練習する。 ニ　正面中央に腰をおろす。 ホ　質問の程度が高かったので，四・五人の幼児が，小声で口ごもっただけだった。動き方に対しては，男児がかけっこ，スキップ，幼児は踊りたい（２・３人）と発言する。 ヘ　スキップする幼児が多く，スキップしながら両手キラキラしたり，両脚跳前進をする。 ト　スキップを片手腰，片手キラキラで，交互に行ない次に両手腰又は両手キラキラを交互にする。さらにスキップに合わせて蝶蝶のヒラヒラをリズミカルに楽し気に行なう。 チ　前回の幼児と相似た動きが繰り返えされる。指導上の留意点には，お友達の表現でよく工夫している個処をみつけて，皆に知らせてやるとあったが，全般的にみて，よい表現を積極的に模倣しようとする意欲は余りない。 ル　グループをつくりよく相談して，表現の分担を決めさせるとあったが，実際には，導入部のピアノ曲に合わせて動いた歩・走・スキップ・キラキラ星など多く，相談し分担を決めた組は少なかった。然し，１児が動くと直ぐ一緒に動いたり，他の幼児は，その動きを助けて動きを構成する形がとられ，活動的な幼児達の日常のリズム遊びの豊かさが想像できる。 。教師の美しいリズミカルを声と，達者なピアノは同一のスキップ遊びのなかで，伴奏曲が次々と変わり，常々幼児の動きを主とした速度，リズムがとらえられる。 。レコード曲を聞き，内容，リズムをとらえて動く場合には，新しい動きを生む手がかりを指導し，即興力・表現力を更に伸長させたい。 。この指導は，50分間行なわれ，午後一時からの学習にも抱らず，幼児達は，元気いっぱい，最後まで活動的に遊ぶ。日常学習時には，前半・後半を切り離し指導の能率を期したい。

例 7　題材　　ご挨拶ごっこ

イ　ピアノ曲でスキップ。 ロ　四つん這いになって歩きます。 ハ　歩きます。みんなの耳は上等だね，よく聞いて膝をきちんとあげて歩きますよ。 ニ　キラキラ星の曲……爪先立歩の前進・後進。 ホ　走 ヘ　ピアノの前に集合，話し合いの姿勢となる。教師の楽しい夢の物語が始まる。 ト　ピアノ――玩具のマーチ，もう少し歩いたら玩具の国へついたことにしましょう。（円周上を歩く） チ　キューピーになってご挨拶してみましょう。 パンパンパーン――タンバリンでリズムを示めす。 キューピーの両手はどんなになっているの リ　象さんの曲，象さんのご挨拶よ，象さんはお鼻をぶらぶらさせて今日はをするのね ヌ　次はあひるさん，ご挨拶は友達と一緒にね。 ル　仲良しさんで一緒にスキップよ（並ぶ連手はしない） オ　ピアノ――仲良しさんよ。 ワ　ピアノ――二人組でスキップよ カ　ピアノ――ご挨拶 ヨ　ピアノ――二人組スキップ タ　さあ，座りましょう。（円周上，中心に向いて） レ　○○さんの組やって見せて頂戴，みんなで真似をしてみましょう。 ソ　さあスキップしましょう。 ツ　もっと，いろいろのやり方があると思うの。○○さんやってみて。 ネ　みんなでスキップ。 ナ　新しい友達と二人組になりましょう。 ラ　スキップ（ピアノ曲が変る場合も，スキップのリズムを知って，直ぐスキップを始める） ム　仲良しご挨拶の工夫 ウ　スキップ。 エ　ご挨拶 ノ　スキップ オ　少し動いて（移動の意味）みたら何うかな考えてみて頂戴。 ク　先生がやってみたくなった。 ヤ　スキップ マ　○○さんやって見せて。 ケ　スキップ。 フ　お友達代りましょう。早くみつけて，できたら座りましょう。座ったままでご挨拶を考えましょう。座っていても，横へいったら，手も足も使えますよ。 コ　スキップ エ　しゃがんでお尻はつけないで（全屈膝） テ　スキップ ア　座ってごらん。まとめの話をする。	イ　決められた音で，好きな格好をして止まる。5・6回反復する。 ロ　喊声をあげて這い廻り，二名の男児がそれぞれ隣りの友達に悪戯をしかけたりする。女児一名，位置を換え広い場所に移動して這い廻る。 ハ　膝をあげて歩く場合は，両手の振り方の度合の少ないものが多くなる。 ニ　リズムのしっかりしたピアノの伴奏に支えられて上手にできる。 ヘ　先生はね，昨夜とても面白い夢を見ました，赤や青のとんがり帽子を被って，白い髭を生やした小人のお爺さんに出合いました。お爺さんは「さあ，いい所へ連れて行ってあげますよ，目をつぶってご覧なさい。」と言って，ソランのように広い広い空を飛んで行きました。眼をあけるとどうでしょう，そこはお伽噺の国でした。そこには，動物の国お花の国，お菓子の国，一畑パークのような遊園地もあり，それはそれは楽しい所です。お爺さんは，「どこの国へ遊びに行きたいの」と聞きました。「そうね，お菓子の国へ行きたいし，花の国へも行ってみたい，えーと，でも，色色な玩具の国へ行って遊びたいなあ」とお返事しました。「では，こっちへいらっしゃい」と連れて行って下さいました。大きい立派な積木でできた門を入っていくと，お城がありました。キューピーの番兵がいて「いらっしゃい，今日は」とご挨拶をしてくれました。もう少しいくとジェット機に出合いました。だんだん行くと，綺麗な階段があって，お部屋の中には，ソファーがあり，お人形さんがいっぱいありました。ゴム風船のようなお人形，あひるのお人形もありました。先生がね遊びたいなあと思ったら眼が空いちゃった。みんなも玩具の国へ連れて行ってあげますよ。 チ　このリズムパターンは一学期に学習したご挨拶ごっこと同一であるので連想が容易で，直ちにリズムにのれる。 リ　教師の助言のリズム言葉により，単に動きを想起するだけでなく，言葉のリズムに支えられて，動きが確かになっていく。 ヌ　二人組同志が互いに相手の動きのリズムに合わせる努力を指示する。 レ　スキップとお辞儀を組合わせる，笑声も出る。 ソ　レの組の動き方とよく似ている。 ナ　二人組の構成を自由に行なわせると，男児対男児，女児対女児組が多くなる。 オ　幼児は両腕を元気よく振って回転（スキップ）を行なうのもある。一女児がスキップで斜め前進をするが，相手の女児が前と同様の動きをする状態に気付いて，動きの発展をとり止めたのは非常に惜しい。 マ　両脚跳とお辞儀を繰り返えす，実にリズミカルである。 フ　互いに，幼児同志手を撃ぐ方法が多く見受けられる。 ア　まとめ ――幼稚園だけでなく，どんなご挨拶があるのご飯の時は，夜寝る時は，みんなきちんとやって下さい。この先生（教師自身の胸を押える）の他の，いろんな先生に出来るかしら。（幼児の元気な返事がはねかえる）誰先生でも，どなたにでも，きちんとご挨拶をしましょう。 今日はこれで上っ張りを着て，椅子を持って入りなさい。

例 8　題材　　松ぼつくり遊び

準　備　ピアノ，積木，4個

イ　はい，ばらばらになって下さい。
ロ　ピアノの即興的伴奏を与えて，情景設定の説明が行なわれる。
お山に木がありましたよ。背の高い高い木もありましたよ。小さい木もいっぱい生えていました。
大きな風が吹いて来ました。後ろから吹いてきました，前からも吹いてきました。さあ，木はどうなるでしょう。
ハ　風に揺れているのは，松ぼつくりの木でした。さあそれでは松ぼつくりの木になってみましょう。
ニ　どんな木にくっついているの，高い木ですか，低い木ですか，松ぼつくりさんは風に吹かれて揺れていましたよ，そう気持がいいですよ。
ホ　松ぼつくりさんは高い木から飛び降りてみたくなりました。ぽっと下にぽつんと落ちました。（ピアノs･f）　コロコロコロコロ転がっていますよ。
ヘ　あっ，失敗して木の根っ子にぶつかった。今度は上手に木の葉の上に落ちました。松ぼつくりさんは面白いことをして遊んでみたくなりました。
ト　松ぼつくりを歌いながら「さ」で，床を両手で叩く。
チ　立って，次は「さ」でしゃがみますよ。
リ　はい，変りますよ。
ヌ　今度は皆で少し難かしいことをやってみましょう。この間一度やってみましたが，面白いからもう一度やってみましょう。
ル　はい，そこに座りましょう。今度は皆が自分でよく考えて，変った遊びをやってみましょう。考えた人は手をあげて。
オ　○○君，レコードに合わせてやってごらん。
ワ　次，○○君，みんなは直ぐ真似してみましょう。
カ　次，○○君。
ヨ　次，○○さん。
タ　次，○○さん。
レ　友達の真似をしないで，考えついたことをやってみましょう。そう，こうやった，こうやった，成る程，余り新しい動きが出ないのね。
ソ　色々なことをして遊びましたね。
皆真中で座りましょう。
お山から，ころころころころ落ちた，松ぼつくりさんは，お猿さんと遊びたくなりました。積木で（正方形）木の根っ子を作りましょう。きいてて頂戴，ピアノに合わせて松ぼつくりさんが遊んでいます。決められた音で，積木に手を触れた人が助かったことにします。お猿さんは好きなところを走っていて，決められた音の出た時，まだ積木に触れていない人を摑まえます。お猿さんは摑まえた松ぼつくりを拾ってお山の穴の中に入れておきましょう。この時，ぎゅっぎゅっと友達を引っ張ったら駄目ですよ始めは男児がお猿さん，女児が松ぼつくりですよ，木になりたい人は積木の上に乗って揺れて下さい。

イ　1人だけ（前に位置する）他の子供に近寄り過ぎたが，他の幼児は要領よく開散できる。開散＝自由隊型
ロ　幼児は，それぞれ木になる。両足を閉じたまま両腕を上挙したり，両足を前後に開いて，腕は何となく上にあげる，又開脚になって，腕をあげたり下ろしたりする等，他の模倣ではなく，自由に思うままに表現を楽しんでいる。そして重心を移動して，よく揺れている。風が前から吹く場合と，後ろから吹く際は身体の揺れ方を変化させるので感心する。「揺れているよ」とつぶやきながら，先生のピアノに合わせて次第に強く揺れる男児もいる。又ピューッ，ピューッ，フューッの声もきかれる。
ハ　松ぼつくりの声で，「僕，お猿，お猿」の声も聞かれる。
ニ　立ったり座ったりして，それぞれ木にくっついている松ぼつくりが揺れて可愛い。7・8人は木になった儘で立って揺れている。二回目も三人立って揺れている。教師のリズム言葉にのせられて，幼児の動きが誘発されている。
ホ　落ち方を5・6回続けて，動きを確かめる。
ヘ　尻もちをついて両足を細かく振る幼児がいる。「遊んでみたくなりました」で幼児達の群に，教師が入り，両側に位置する幼児と手を撃ぐと，全員一重円になり，教師の動きをよく注目して，同時にしゃがむ。
ト　歌の後半で遊びのリズムを理解し，元気いっぱいに活動が始まる。
チ　連手を振っては「さ」でしゃがむ。
リ　タクトに合わせて両足跳をしながら「さ」で開脚。
ヌ　その場の足踏より「さ」で自転の1回転を行なう。ピアノ伴奏，先生の歌で，幼児の動きの容易になる連度で行なう。足踏より一回転を行なうので，踏み切りが十分でなく，身体の均衡が十分とれず，転ぶ幼児も多いが，きゃっきゃっと大はしゃぎで，自分を試す遊びに無中である。技能の程度の高い運動は，その要領を見出す努力が必要であるが，この際は，その場の足踏を中止して「さ」で自転を行なうのも，ひとつの要領となる。
ル　考えた，考えたとさかんに言い挙手をする。
オ　「さ」のリズムで両手上挙で円を作る。
ワ　「さ」のリズムで両手で胸を抱く。
カ　「さ」のリズムで，両手側挙となり，最後の「さ」は跳んで開脚となり両手横。
ヨ　「さ」のリズムで，両手を斜上下に伸ばす。右腕上を2回，次は左腕2回，といかにも女児らしくリズミカルに繰り返えす。
タ　立って足踏をし，「さ」で自転，一回跳をする。難かしい動きなので先生は一生懸命に手を叩いて調子をとり励ます。実に好ましい様相である。
レ　レコードに合わせて，全員でやってみる。
ソ　木の根っ子とする積木を室全体の広さを考えながら，位置を離して置く。
お山の穴は，室正面の教壇の片側と決めて，確認させる。教師の遊びの説明が面白いので，幼児達よく笑う。積木の上に乗り，揺れる木になりたい男女児は，即座にぱらぱらっと走って，積木の上に乗り，足を拡げたり，両手を挙げたりする。遊びは，スキップで行なわれるが，反対廻りをする幼児が一人あり，衝突しかけ，教師の注意を受けて，すぐ全員常時の廻り方になり，遊びが続けられる。
積木上の幼児は，4回で交代する。3・4人のお猿が1人の幼児を摑まえたりして，1回目は，3人摑まり，2回目は大半が摑まる。摑まえられた幼児は，決められた場所で静かに遊びを眺め，全員がこの遊びを楽しんでいる。

例 A　　4，5，6 才児の身体と動きの特徴

4 才 児	5 才 児	6 才 児
広範囲にわたって，非常に活動的になり，仲間とともに育っていく。 ◦身長が伸びて，手・足・肩・胴が別々にはたらくようになってくる。（手・足の屈伸と肩の上下運動は，それぞれ，同じ速度でできる） ◦投げる場合の構えを習得する。 ◦両手を上手に使うようになり，手先の動きが活発になって，鋏を使って真っすぐに切ろうとする。 ◦平衡をとる必要のある活動をよろこび，時にはリズムをさえぎって自分の反応を誇示する。 ◦一人よりも他の子供たちと遊ぶのが好きになる。 ◦「規則」を守ることをよろこんで，じょうずに受け入れていく。 ◦歩き方は大人と大差なくなり，ぐるぐる回ったりとんぼ返りをしてはよろこぶ。 ◦走り方はいっそうなめらかになり，スピードの調節もできて，急角度で曲がったり，急に止まることができる。 ◦座って体の安定をとることはじょうずであるが，次の動作に移ることは，まだ上手にできない。 ◦投げる準備の動作ができ，真っ直ぐに前方に投げられるが，高さの調節はできない。 ◦前方に体を傾けることは三才児より楽になる。	運動に無駄がなくなり，体の平衡感覚が発達する。音楽に対して興味をもち，これに合わせて踊ったりはねたりする時代である。身長が伸びるので，一見やせているように見られる。 ◦身体活動にスピード感，スリル感を望むころとなり，大人がはらはらするような自慢をする。 ◦投げる機会が少ない場合は，両足を揃えて投げる。両手で下手投げ，両手でサイドから，両手で肩からパスなどのタイプがみられる ◦腕・指の運動神経が4才児より，さらに発達するので，ピアノ・バイオリンの指導に適する。 ◦リズム遊び・模倣は身体の発育と共に非常に確実になってくる。また男児は活発な動きの模倣を好む。 ◦自分と同じ年頃の子供達と遊びたがる。 ◦手と目の動きが無駄なく結びつき，割合いに早く動くことができる。 ◦走は以前のように転ばなくなり，音楽に合わせて行進することを喜ぶ ◦空間の深さを計る力がでて，目と手を一斉に使うことができる。 ◦階段を降りる際は足を交互に使い，スキップも交互にできる。 ◦手や足のさまざまな動きは児童期の準備とみられる。 ◦音程感やリズム感が明確になって，すべての学習にリズムを積極的にとり入れて，動きや行動のなかでリズムに対するよろこびを味わうことができる。	児童期への変化が現われて骨と筋肉が調和的に発達し非常に活動的になる。5才児に比べると病気にかかり易く緊張のはけ口を求めて，しかめら，あえぎ，ため息，舌なめずりをする。 ◦活動はやり過ぎるために不器用になることがあり，転んだりする。これはスキップ遊びによく見られるすがたであるが，すぐ起き上って上手に続けられる。 ◦投げる運動は非常に加速度がつき，腕がよく伸びて，投げる姿勢に前傾がみられる。この動作には男女差が現われる。 ◦目で空間の深さを確かめる力が発達してくるので積木の端を揃えて積みあげられる。 ◦身体はバランスがとれてくる。跳箱の上からの跳び降りは力いっぱいできる。 ◦約30cmの高さからとびおりて，爪先だけで立つことができる。 ◦目を閉じて片足ずつ交互に立つことができる ◦劇遊びのなかでは，歌う，伴奏のタクト打ち，踊る，弾くなどをグループに分れて分担し合い，総合的に表現できる。 ◦子供同志の話し合いのなかで即興的な身体表現ができる。 ◦自由遊びのなかで，自主的に語りながら簡単なきまりをもった集団遊びができる。 ◦幼稚園児はスキップが100％上手にできる。 ◦活動的で蛙跳びなどは，疲れを知らぬように20回～30回は連続できる。 ◦模倣の際，示される情景に，好悪の男女差がでてくる。然し模倣活動は大体等しくできる。